

2024 年 1 月 30 日

2023 年度聖路加国際大学大学院看護学研究科
修士論文

病棟看護師が患者の移乗・移動を介助する実態
福祉用具を使用する・使用しない行動と判断に焦点をあてて
-観察と半構造化インタビューによる質的記述的研究-

**Actual Situation of Ward Nurses Assisting Patients with Transfer and
Mobility Focusing on Their Behavior and Decisions whether or Not to
Use Assistive Equipment: A Qualitative Descriptive Study Using
Observation and Semistructured Interviews**

学生番号 22MN005

氏名 上田 秩子

要旨

【目的】患者の移乗・移動を介助する場面における病棟看護師の言動やその言動にまつわる意図や判断、さらにはその意図や判断に関わる職場環境要因から患者の移乗・移動がどのように介助されているかについての現状を把握することである。なお、職場環境要因としては、福祉用具の設置状況、移乗・移動の介助に関わるマニュアル、関連する教育内容や方法、人的資源を取り上げる。

【対象と方法】本研究は参加観察法、半構造化インタビューを用いた質的記述的研究である。入院基本料 5（10 対 1）の算定をしており、ノーリフトケア®を組織的に 1 年以上実践・継続している 1 施設 1 病棟の看護師 4 名、対象病棟看護師長 1 名、ノーリフトケア®を推進するプロジェクト関係者 1 名を対象とした。データ収集方法は、看護師 4 名が移乗・移動の介助をした場面に絞り参加観察を行った後、それぞれ個別に半構造化インタビューを実施した。ノーリフトケア®を実装する現場情報を補完する目的で対象病棟看護師長 1 名とプロジェクト関係者 1 名に半構造化インタビューを行った。参加観察から得られた患者の移乗・移動を介助する場面状況と参加観察後のインタビューを統合して内容分析を行い、サブカテゴリ、カテゴリを形成した。聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を受けて実施した（承認番号 23-A020）。

【結果】患者の移乗・移動の介助に福祉用具を使用した場面は 28 場面、不使用は 23 場面だった。看護師の観察と語りから、福祉用具を使用する意図・判断基準の要素といえる 12 のサブカテゴリが形成された。そこから使用する意図・判断基準に影響を与える要因ともいえる 5 つのカテゴリ【患者の状況】【福祉用具の使用によるケアの質の向上】【ペアとなる相手のペースに合わせる】【自分の健康を守る】【福祉用具を通常ケアにしたいという強い信念】が抽出された。福祉用具を使用しない意図・判断基準の要素といえる 3 つのサブカテゴリが形成され、使用しない意図・判断基準に影響を与える要因ともいえる 3 つのカテゴリ【福祉用具が手元にない】【ペアとなる相手のペースに合わせる】【患者の ADL 拡大を促す】が抽出された。

【結論】【ペアとなる相手のペースに合わせる】は福祉用具の使用・不使用どちらの意図・判断基準であることが示された。看護師はペアとなる同僚のスタッフと協調し、ペースを合わせて業務を進めることを大事にしており、福祉用具の使用・不使用の意図・判断基準に影響していた。福祉用具を使うペースを作り出す強い信念をもつリーダーが増えることで、福祉用具を使いやすい環境になることが示唆された。また、管理者は質の高い患者中心のケアを追求するメッセージを送り続けながら、福祉用具の調達とアクセスしやすい物理的環境を整備する役割が求められる。